



FAEGER

株式会社フェイガー 会社紹介

持続可能な農業の実現に向けて

株式会社フェイガー

2026年7月

各国での調査・事業展開国



India

木質でバイオ炭製造を実施中の企業とPoC
茶畑へのBS適応も本邦メーカーと協議中



Uganda

ウ国農研機構、現地バイオ炭製造業者とMOU締結済。バイオ炭/AWDの高収益モデル開発（経産省GS案件）



Vietnam

現地法人設立。現地政府・企業と間断灌漑によるJCMクレジット事業の組成中。



Philippines

ヤンマーグループと間断灌漑によるJCMクレジット事業を展開中。バイオ炭の取組も開始。



Thailand

現地企業とバイオ炭/AWDを用いた脱炭素農業事業について協議中（東京都GS案件）



Indonesia

アラブ首長国連邦のファンドOffset8、インドネシアの農業法人Sawa Ecosolutions, Inc.と三者間MOUを締結。現地農機メーカーとAWD事業 x バイオ炭の脱炭素農法の普及（東京都GS案件）

生成するクレジット分類

- JCM（政府）
- ボランタリークレジット（民間）

方法論

- 間断灌漑（水田）
- バイオ炭（水田・畑地）
- 耕種土壌炭素貯留（水田・畑地）
- 微生物施用炭素貯留（畑地）
- 不耕起栽培による炭素貯留（水田・畑地）

日本の「水稻栽培における中干し期間の延長プロジェクト」の実績と展望

- 2023年から2025年にかけて取り組み面積22倍、農業分野においては日本最大のプロジェクトを運営
2030年までに日本の水田の20%（30万ha）で100万トンの脱炭素化を実装予定

取り組み規模

■ : 大 ■ : 中 ■ : 小

■ : 未実施地域

2023年 実績

取り組んだ生産者数

60戸

生成クレジット

1,600
ヘクタール

約5,955
t-CO₂

2024年 実績

取り組んだ生産者数

1,221戸

生成クレジット

25,202
ヘクタール

135,944
t-CO₂

2025年 実績

取り組んだ生産者数

約1,776戸

生成クレジット

36,436
ヘクタール

225,735
t-CO₂

参画地域（36都道府県）

- 北海道
北海道
- 東北
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、山梨県、長野県、静岡県
- 北陸
新潟県、富山県、石川県、福井県
- 東海・近畿
岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県
- 中国・四国
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県
- 九州・沖縄
福岡県、大分県、宮崎県、熊本県

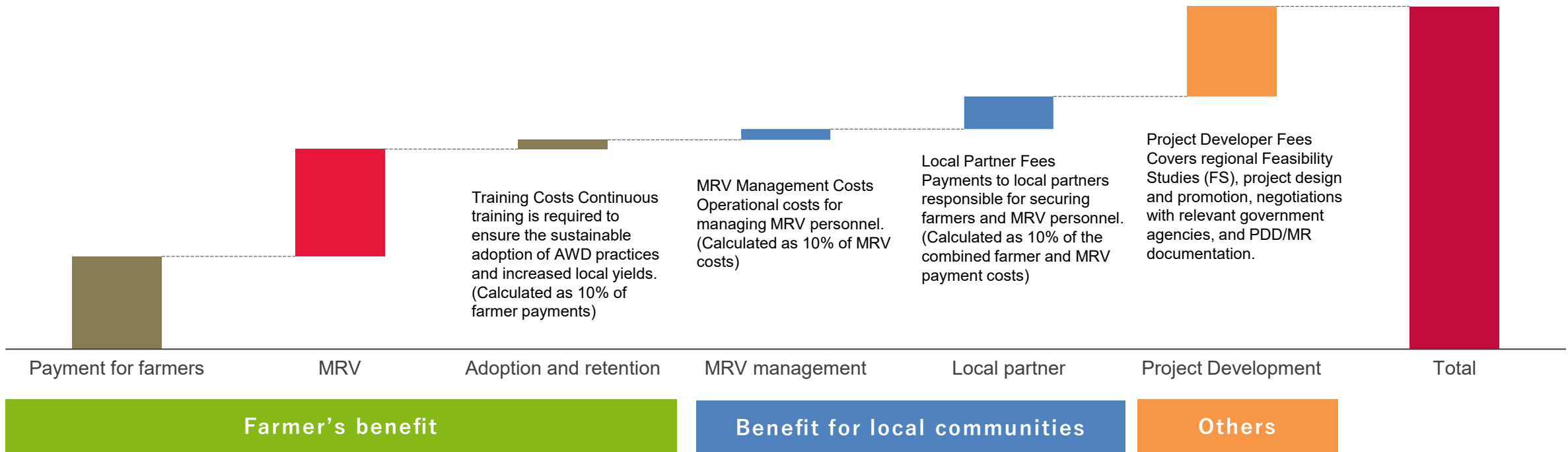


AWDコストの実態

- JCM AWD（間断灌漑）には相応の運用コストとMRVコストが発生する

AWDプロジェクトコストの内訳

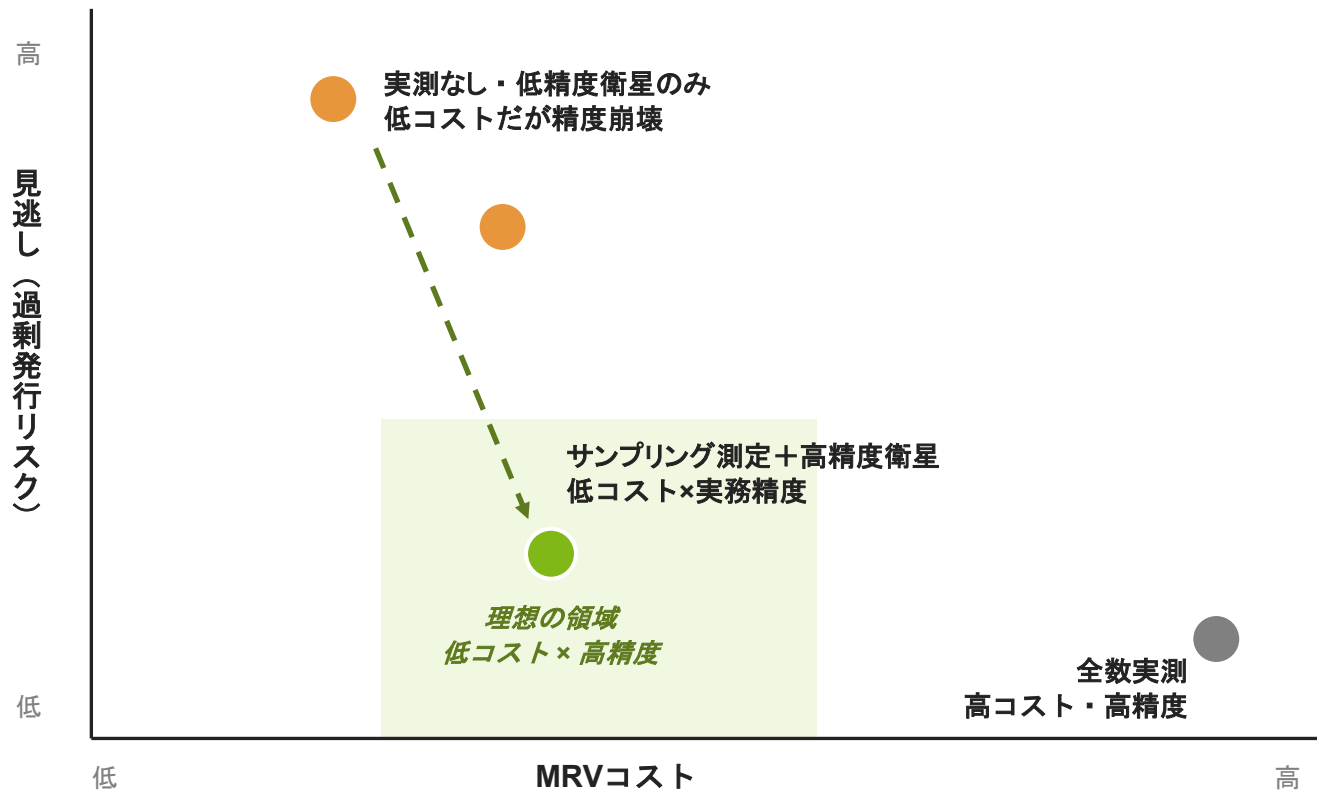
[USD/tonCO2]



MRVコストと信頼性の関係

- MRVコストは下げたい。だが精度を犠牲にした削減はクレジットの信頼性を損なう
精度の担保はコスト削減の「前提条件」である。

過剰発行リスクとMRVコスト



※ 各点の位置は関係性を示す概念図であり、具体的な数値を意味するものではない。

検討の方向性

- 現行のJCM方法論は、全圃場の水位を人手で確認・記録する前提。面積が広がるほど人件費が線形に増え、事業性を圧迫する。MRVコスト削減は重要。
- ただし、コスト削減そのものを目的化しない。非遵守の見逃し（偽陰性）は過剰発行に直結し、過剰発行はクレジット全体の信頼性を毀損する
- 精度とコストはトレードオフだが、精度には譲れない下限がある。下限を守りながらコストをどこまで下げられるかを見極めていきたい

FAEGER

株式会社フェイガー